



AET1

Asian and Middle Eastern Studies Tripos, Part IB

Tuesday 2 June 2015 13.30 to 16.30 pm

Paper J7

Literary Japanese

Answer **both** sections and **all** questions. All questions carry **equal** marks.

Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** answer booklet.

STATIONERY REQUIREMENTS

20 page answer booklet

Rough Work Pad

SPECIAL REQUIREMENTS TO BE SUPPLIED FOR THIS EXAMINATION

None

You may not start to read the questions printed on the subsequent pages of this question paper until instructed to do so.

SECTION A

(1) Translate the following passage from an **unseen** text into English. The headnotes are for reference only. [40 marks]

- 一 昔と今との中間の時代。前代の物語の「昔」に代って、お伽草子の冒頭に多く用いられる。
- 二 三重県津市の南東の海岸。伊勢神宮の神饌を調えるために、一般に網を引くことを禁じていた。『古今六帖』三に、「逢ふことを阿漕の島に引く網の度重ならば人も知りなむ」とある。
- 三 「おくる」は、親しい人に死に別れる、生き残る意。
- 四 出家の姿となり。「元結」は、髻とを結び束ねる糸や紐。
- 五 海老名南阿弥陀仏は、足利家に仕えた武士。『申楽談義』によると、歌舞音曲に通じて、曲舞「東国下り」の節をつけたという。『常楽記』によつて、永徳元年(三三)没と知られる。海老名家は、村上源氏の末流。その家名は、相模国高座郡(現神奈川県海老名市)の地名から起る。「阿弥陀仏」略して「阿」は、おもに時宗で法名の一部につける。
- 六 俗世間をのがれて仏門にはいった人。
- 七 大名・高家は、この遁世者を出入りさせておられた。「大名」は、将軍家の家臣で広い領地を持つ者、「高家」は、将軍家の同族をさす。
- 八 都の中。京都の市中。
- 九 「買はう、えい」の訛まり。「買はう」は、「買へ」と勧める言い方。「えい」は、かけ声。
- 一〇 富裕。金持。
- 一一 五条通から清水坂に通ずる橋。

猿源氏草紙

中ごろのことにやありけん、伊勢国阿漕が浦に、鰯売一人あり、もとは海老名六郎左衛門とて、関東侍にてぞありける。

妻におくれて、女を一人持ちたりしを、日ごろ召し使ひける、猿源氏といふ者にとらせて、すなはち鰯売の職を譲り、わが身は都へ上り、元結切り、海老名南阿弥陀仏とて、隠れなき遁世者にてぞありける。大名高家近づけ給へり。

さる程に、聳の猿源氏鰯売、都へ上りて、洛中を、「伊勢国に阿漕が浦の猿源氏が鰯買うえい」と言ひて、商ひければ、人々、これを聞きて、おもしろき鰯売かなとて、人々買ひとるあひだ、猿源氏、程なく有徳の身となりけり。猿源氏、鰯を売るとて、五条の橋を渡りしが、折節、網代の輿に行きあひしが、川風激しくして、下簾をばつと吹き上げたるその隙より、輿の

今の松原橋にあたる。
 三 青竹や檜皮^{だひわ}を網代に編んで、
 屋根や両脇に張った奥。「網代」は、
 青竹や檜皮などを細く削って、斜め
 または縦横に編んだもの。
 三 車や輿の簾の内に掛けた帳^{とば}。

二 年功を積んだ僧から転じて、身
 分の高い女をいう。ここでは、遊女
 を「上臈」と呼んでいる。
 三 「そぞろ」は何となく浮わつくさ
 ま、何となく落ち着かないさま。

二六 『伊勢物語』二十七段に「われはか
 りもの思ふ人はまたもあらじと思へ
 ば水の下にもありけり」とある。自
 分の姿がたらいの水に映って見えた
 のを詠んだ歌。

二七 「あらぬ」は「あらむ」の意で、「あ
 らん」を書きゆがめたものか。



内の上臈^{じやうふひとめ}を一目見しより、恋となり、明け暮れ思ひわづらひて、
 心もそぞろになりはてて、明くれば五条、暮るれば橋へ出で、
 商売さらに身にします、うち臥^ふし、一首、

二六 わればかりもの思ふ人はまたもあらじ思へば水の下にもあ
 りけり

と、古き歌など思ひ出し、またかくなん、

二七 命あらばまたもやめぐり見もやせん結ぶの神のあらぬ限り
 は

鰯売 sardine seller
召し使う to keep somebody in one's service
譲る to hand over
遁世者 a monk
商う to deal in, to trade in
買いとる to buy, to purchase
程なく soon, shortly
網代の輿 a wickerwork palanquin
行きあふ to meet by chance, to come across something/somebody
下簾 lower screen
隙 an opening, a gap
上臈 a court-lady or a prostitute
身にしむ → 身に染む to focus on something

SECTION B

(2) Translate the following passage from a **seen** text into English adding notes where you think they are needed: [20 marks]

242

馬^{うま}と狐^{きつね}のはなし

一 下巻14「野牛と狐との事」(二五五頁)。

ある野中を、馬と狐と走りしが、誤つて二つながら、古井戸の中へ落ち入り、上がらんとするに、便りなし。その時、狐、馬に向ひて言ひけるは、「不思議の災^{わざ}ひにて、かゝる不覚を取りたり。さりながら、二人ながら、この井の中にて死なんも、口惜^{くち}しき事なり。されば、まづ御身^{おんみ}の背中へ我等が乗りて先へ上がり、上より御身を引き上げ申さん」と言へば、馬は、偽^{いつわ}りなりとは知らず、「さらば、御身、先へ上がりて、我を引き上げ給へ」といへば、狐は、「しすましたり」と喜^{よろこ}び、馬の背中へ乗りて、難なく上に飛び上がり、「さてく、御身は愚かなるものかな。我等、先へ上がりしとて、いかでか、我が力にて上がるべき。いつまでもゆるりと、そこに居給へ」とて帰りぬ。

二 頼みになる手がかりがない。
三 思いがけない災難。
四 失敗を招く。

五 うまくやってのけた。しめた。
六 どうして。

馬は空しく、井の中にて死しぬ。

七 無駄に。はかなくも。

その如く、何の思案もなく事を為す者は、この馬の如く、ついに人に謀^{はか}らるゝものなり。

Isoho monogatari (Iwanami bunko), p. 242.

(TURN OVER)

(3) Translate the following passage from a **seen** text into English. Comment on the grammar of the passages below the text: [20 marks]

むかし、おとこありけり。女のえ得まじかりけるを、年を経てよ
ばひわたりけるを、からうじて盗み出でて、いと暗きに来けり。芥
川といふ河を率ていきければ、草の上をきたりける露を、「かれ
は何ぞ」となんおとこに問ひける。ゆくさき多く夜もふけにければ、
鬼ある所とも知らで、神さへいといみじう鳴り、雨もいたう降りけ
れば、あばらなる蔵に、女をば奥にをし入れて、おとこ、弓胡籙を
負ひて戸口に居り、はや夜も明けなと思つゝゐたりけるに、鬼は
や一口に食ひてけり。「五」

Ise monogatari (SNKBZ 17), p. 84.

- (a) え得まじかりけるを
- (b) 率ていきければ
- (c) ゐたりけるに

(4) Translate the following passage from a **seen** text into English. Also, write out the *kakikudashi* version in hiragana and kanji with furigana for the kanji: [20 marks]

遊子方言叙
花之美多則多矣不若花街花
之美且情桃李雖然美不言不
語牡丹海棠雖然艷不笑不歌
此花也不唯能言語笑歌其色
一過目則奪精蕩魂其香一觸
鼻則飛心斷腸

END OF PAPER